



教授の呟き

第48回

物流の視点からも選びたい贈答品

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

贈り物の季節がやってきた

お歳暮の季節がやってきた。その年にお世話になった人へ、贈答品に託して感謝の気持ちを表す。起源は、お正月に先祖の霊に供え物をした日本古来の習わしという。本来は自ら手渡すべきものが、アウトソーシングによって配送品となったという解釈もできる。

この気遣いに満ちた古くからの習慣が、誤解を受けるような行為になってはいけない。取引先企業から自宅にお歳暮が送られないようにと、社員の住所を非公開にする会社もある。個人情報保護の理由もあるのだろうが、贈答品が不正の温床とならないようにとの配慮だろう。

贈る側は、もう一つ上手をいって、個人名を使うこともあるらしい。会社名では、ばれてしまうが、個人名なら家族が友人と錯覚して受け取ってしまうかもしれない。

価格調べが総務の仕事に

会社や組織によっては、上限の価格を設けて、高額な贈答品の受け取りを禁じている例がある。缶ビールや海苔（のり）などの商品ならば価格も類推できるが、特産品となると正確な価格が分からない。こうなると、悲喜劇が生まれる。

「地魚の詰め合わせセット」が送られてきて、商品の価格が分からずに心配になった友人は、勤め先の担当

部署に問い合わせた。「その程度の魚しか入っていないければ、胃袋にしまってください」と言われて、「自分も、地魚程度の価値だから」と苦笑いしていた。

エビやカニは、入っていなかったのかもしれない。総務課も、お歳暮の価格調べという新しい仕事が増えてしまった。

「おすすめ商品」は海苔

学生時代、デパートの外商部でアルバイトをしたことがある。多忙な社員の代理として、得意先のお宅を訪問し、お歳暮の注文を取ってくる仕事だった。会社に戻ってから、預かった贈り先のリストをもとに、宛先と商品名を伝票に書き写していく。品物の種類が増えたり、宛先ごとに商品が異なると、転記ミスが起きやすい。

「『おすすめ商品は？』と聞かれたら、『海苔』と答えると良いよ」と、アルバイトの先輩に教えてもらった。表向きの理由は「お正月に使う品物で、好き嫌いが少ないから」。

しかし、別の理由もあった。当時は、パソコンなどない時代である。伝票には、宛先別に商品名を手書きしていた。贈り先別に商品を2～3種類に分ける人もいたが、贈り先が多い人ほど品物の種類も価格も限られる傾向があった。

名前の長い商品や漢字が多い商品に比べれば、「のり」と平仮名で書けるから記入も楽で速い。すべての贈

答品が、「同じ価格」の「同じ商品」であれば、ミスも起きようがない。海苔の売り上げ増加には、少しばかり貢献したかもしれない。

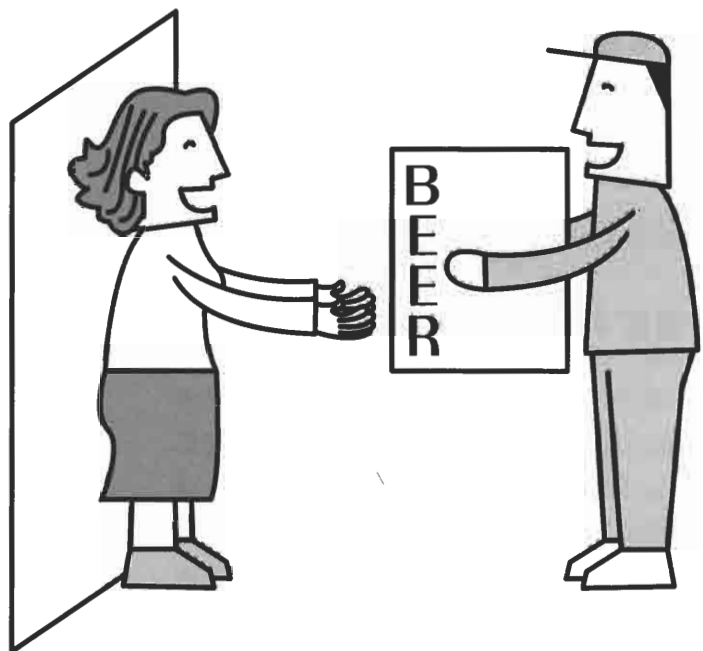
●●●ビール人気は物流への配慮

最近の調査では、贈りたい商品ももらいたい商品も、第1位はビールという。情報化の進んだ現在だから、まさか「ビール」という字が書きやすいことが理由ではないと思う。

ビールがオープン価格となったことをきっかけに、1社を除きビール券は販売中止になったようだ。大学の研究室では、いただいたビール券を元手に飲み物とつまみで乾杯することがある。実物よりも軽くて持ち運びができ、お金がわりになるビール券はありがたい。しかし重たいビールを運んでくれる学生がいてこそ、その便利さが成り立っている。

主婦にとってみれば、小売店で券を交換してビールを家まで持ち帰ることは、重労働だろう。ビール券よりもビールそのものが玄関まで運ばれてくる方が、うれしいはずだ。もらい物ということで遠慮なく飲むことができるだろうし、ビール券のようにほかの商品に化けてしまう恐れもない。

家まで届けられるビールは、ビール券よりも重くて配送効率も悪い。しかし、そこには「重たさを届けるサービス(?)」が含まれていると考えれば、受け取る側にとって、ありがたいことでもある。



無難なギフトという理由もさることながら、ビール人気の陰に贈り先の物流への配慮もあるとすれば、

実に気の利いたオシャレな話でもあ



| | | |
|--|----------------------------|---|
| Profile  | 東京海洋大学 海洋工学部 流通情報工学科 教授 |  |
| 苦瀬博仁 | | |
| (くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/ | | |